

活動報告

団体名	一般社団法人バルビー
活動名	復興支援「みんなで作る回復力のある地域」コミュニティ構築に関わる活動
活動期間	2017年10月～2018年3月
活動の成果	<p>他団体等との連携を大事にしながら、ふれあい祭りや交流会等のイベント等を通して住民同士のコミュニケーションの場や、交流や支え合いを継続できる関係性を築くことのできる環境づくりを目指して活動した。</p> <p>○コミュニティ形成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民同士の交流を深め、お互いに見守り合える関係性を作るための機会を提供できた。 ・みなし入居者や在宅被災者が情報を得られ、交流・相談ができる場づくりに協力できた。 ・仮設住民、特に自治会との信頼関係が構築でき、自治会のサポート要請があった。 ・住民同士が顔見知りになり交流を深めることが、再建先及びこれから完成していく災害公営住宅、または元の居住地における交流の継続に繋がる一助となる。 <p>○社会福祉協議会、地域支え合いセンター、他団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会や地域支え合いセンターとの信頼関係ができ、比較的気軽に協力要請があるようになった。 ・制度や支援策に当てはまらない人に対する柔軟な支援の重要性が改めて明らかになった。 ・会議体において現状や課題の共有ができ、支援の方向性や内容の検討、連携した活動に繋がった。他団体と常に顔を合わせ、連携を大切に活動してきたことで、協力体制が深まった。
寄付者へのメッセージ	<p>寄付者のみなさまのお気持ちのおかげで、熊本地震で被災者のニーズに寄り添った活動をすることが可能となりました。熊本地震とその被災者を長期に渡り思って下さる方々の存在は、私たち熊本人にとって大きなサポートです。心から感謝いたします。</p> <p>熊本地震発生から2年。発災直後の大混乱、避難所や車中などでの生活と自宅の被害、仮設住宅での生活と様々な苦勞を乗り越えて、現在では住まいの再建のフェーズを迎えています。自宅の修繕や再建が完了し、仮設暮らしを終了する住民が少しずつ増える一方で、仮設団地に残る住民もおり、見守り支援やコミュニティ維持が危惧されています。</p> <p>微力ながら、主に未だに仮住まいを余儀なくされている住民や被災からの困難を抱えている住民やコミュニティにとって有意義な活動を継続しつつ、熊本の現状をみなさまに伝えていきたいと思っております。</p>

(活動のようす)

